

健康づくり関連 4 計画の推進に向けた意見交換会（主な意見）

日 時：令和 3 年 12 月 16 日（木）午前 9 時 00 分～午前 10 時 30 分
場 所：大阪国際がんセンター 5 階会議室
出席委員：天野委員、磯委員、藤原委員、松浦委員 4 名（50 音順）

- ・ 社会現象である高齢化が健康指標に及ぼす影響は避けられないため、国は健康指標に係る年齢調整の考え方を示している。人口構成の変化の影響により指標が悪化し続けるものもあり、適切に評価を行うために、今後の最終評価や次期計画では、年齢調整について検討する必要がある。
- ・ 朝食欠食率について、年齢別、性別の指標があるとよい。野菜摂取量には野菜の手に入れやすさの違いによる地域差がある。食塩摂取量は、エネルギー摂取量に比例して増えるため、本来は一律の基準ではなくエネルギー補正が必要となる。
- ・ むし歯本数は減っているが、むし歯治療が必要な者の数はあまり減っていない。むし歯本数が減っている要因としては、フッ化物が配合された歯磨剤が普及したことが挙げられるが、引き続きむし歯予防にかかる取組みは必要である。また、歯が残るようになったことで、歯周病が目立つようになってきた。30 代の歯科受診習慣がターニングポイントである。
- ・ がん教育は、学習指導要領へ記載されたことから、ここ数年で取組みが進んでいる。健康増進の教育はどうか。
- ・ 学校における健康増進の教育は、保健体育と家庭科において指導カリキュラムがあり、これまでも実施されてきている。小中高の指導要領では、「生きる力を育むことを目指す」とし、学校の先生だけでなく社会全体で教えていくこととなっていることから、次期計画では社会全体が子ども達へ教えていく必要性があることを盛り込むとよい。

<事務局>

本日の意見は、今後の取組みや次期計画を検討する際、参考とさせていただく。